

# 慈濟

ものがたり

ツーチー 2018年11月 263





## ハスの花が咲き乱れる菩薩大道

● 表見返し 文・證嚴法師

訳・済運 撮影・黄筱哲

仏法を心に聞き入れ、六度に向かって精進すれば、

気性穏やかにして耐え難きを耐え、慈悲に溢れるようになる。

智慧を修め、世に福をもたらし、喜びで以って奉仕すれば、

菩薩大道にはハスの花が咲き乱れる。



慈済大学模擬医学センターの模擬手術に、「無言の良師」が医療教育のために献身している。それは医師たちの臨床技術を養成するのみに留まらず、彼らを大いに啓発している。  
(図・葉晋宏)

# 目次

## 【社論】

無我、無争は輝かしい人性の出会い

慈願／訳 4

## 【特別報道・台鉄特急列車脱線事故】

台鉄プユマ号脱線事故における  
慈済の慰問活動

済運／訳 8

## 【主題報道】

|                      |        |    |
|----------------------|--------|----|
| 無言の良師 野原敏裕           | 黒川章子／訳 | 14 |
| 零下三十度の愛 慈済大学模擬医学センター | 済運／訳   | 16 |
| 訓練期間を短縮して良医を養成する     | 黒川由希／訳 | 22 |
| 根拠に基づく医療で東洋の人文をいかす   | 惟明／訳   | 40 |
| 献体に関するQ & A          | 心嫻／訳   | 57 |

## 【健康の玉手箱】

ショッピンングカートの中に何を入れましたか？

明陞／訳 60

## 【慈済国際・モサンビーク】

出発！ゴミ山の住民がスーパーに行く

本諦／訳 65

## 【證嚴法師のお諭し】

時は一秒も待ってくれない  
私たちは四諦から離れずに

慈願／訳 74

## 【慈済台湾】

卓蘭での山暮らし 医療スタッフが我が家に

葉美娥／訳 84

## 【本音で学校の懇談会に】

インターネット利用に対する賛否両論

明陞／訳 96

## 【納履足跡】

智力を活性化させる

済運／訳 100

慈済大事記【十月】

済運／訳 107

## 無我、無争は輝かしい人性の出会い

證嚴法師は、人がこの世に存在している時は天下に奉仕し、命の終わりにはその身を生命の奥秘を探る医学に提供することで、無用になったその身を大いに役立たせることができる、と常におっしゃっていた。

私たちが献体の話に及んだ時、法師は「こんなに多くの弟子たちが実行しているのですから、私にもできることなのです」と言われた。

慈済は一九九五年から社会に献体呼びかけ、今では八百五十八人の人が献体として登録している。その中で、三百人以上が解剖教学、五百人が模擬

手術教学への提供を希望しており、最年長者は百一歳、最年少者は十四歳になっている。

献体は中国人の「遺体は完全な形で保たれるべき」との伝統観念を打破し、また、死に対する様々な禁忌を超越し、さらに意義深い生命礼儀を作り出している。慈済大学模擬医学センターが成立した因縁と発展において、献贈者及び家族の「捨」によって代々の良医が育まれて、また模擬手術教育が国内外の多くの医学界においても不可欠の学習交流の機会になっていることを本号の主題報道は詳細に記載している。

西洋医学史を回顧すると、解剖学は十八世紀末になって新しく興った医学の道だといえる。しかし、献体を得るのは非常に困難なことであった。犯罪者や身元不明の遺体、果ては墓荒しや殺人人によってまで、遺体を確保しなけ

ればならなかったが、その数には限りがある。医学界でも様々な死体売買のケースが発生していた。今日このような事件は聞かれないが、依然として解剖学や手術教学訓練の遺体は欠乏している。

台北慈濟病院の張耀仁副院長は、かつて二〇〇三年に台湾でSARS病原菌が大流行していた折、最前線の医師が患者に管を差し込む時、訓練不足のために失敗して自分も感染し、亡くなったと書いている。以前の管を差す訓練は模型によって練習するので、実際の手術とは大分差がある。医療を施す危険性と未熟な医師の焦慮がよく分かる。

献体は、医学生基礎医学の解剖課程から始まり、その後、模擬手術に発展して実習、主治医師の高難度の臨床操作訓練及び実習による各種の臨床技巧、

また新しい手術方法の研究開発のため行われる模擬手術には海外の医師も参加している。歴史あるマレーシア大学では、二〇一一年に慈済大学の模擬医学センターと合作している。マレーシアは東南アジア地区で積極的に遺体献贈を推進している国なのだ。

二十三年来、献体者は医師と医学生の間で「無言の良師」と感謝されている。大愛を以て奉仕するという気持ちは、医学の殿堂に滋養を与え光を放つこととなった。また医師は感動を以てさらに使命感を自覚して身をかがめ、病に苦しむ人々を解放している。この無我無争の人性の輝かしい出会いこそが衆生の福であると思う。

（慈済月刊六二三期より）

# 台鉄プユマ号脱線事故における 慈濟の慰問活動

●プユマ号脱線事故現場。8輛編成の特急列車が脱線してw字型になり、4輛が横転した。今回の事故は台鉄40年来、最も死傷者の多い事故となり、救出作業は夜を徹して行われた。（撮影・賴振豐）



# 事

故発生後、慈済ボランティアは直ちに事故現場の「新馬駅」の外に支援センターを設置した。二時間の内に二十五人のボランティアが新馬駅、そして三十人余りが羅東聖母病院や羅東博愛病院などの病院に駆けつけ、負傷者を慰問すると共に家族への連絡を手伝った。犠牲者の遺体は蘇澳榮民綜合病院に送られ、焦燥に駆られた家族が到着する前から、ボランティアは隊列を組んで助念（注1）を始めた。

ボランティアと地域住民は慈済羅東連絡事務所と蘇澳リサイクルセンターで災害支援物資の準備を行った。政府と消防署、軍隊は二百人余りの救助人員を派遣

し、夜を徹して救出作業を行い、鉄道局も二百人余りを投入して鉄道の修復作業に当たった。ボランティアは迅速にお茶や生姜湯、ビーフンスープ、お粥、日用品パック、毛布などを準備し、救助人員

●事故車両を離れた乗客には新たな時間が始まった。救助された負傷者は救急車で病院に向かい、ボランティアが合掌して祝福した。（撮影・頼振豊）



●100人余りの負傷者が5つの病院に搬送された。蘇澳榮民綜合病院は40人余りを引き受け、慈済ボランティアが負傷者とその家族を慰問した。（撮影・周滿）



●救助活動現場から少し離れて、慈済ボランティアは救助人員の体力回復のために水や温かい食事を補給すると共に、敬虔に死傷者のために祈った。（撮影・廖月鳳）



## 台鉄ブユマ号脱線転覆事故

（統計数字：2018年10月22日現在）

- 事故発生：樹林発台東行き8輛編成の特急6432号が10月21日16時50分、宜蘭県蘇澳鎮新馬駅で全車輛が脱線し、そのうちの4輛が横転する事故を起こした。乗客366人のうち233人が死傷した。
- 死者：18人
- 負傷者：215人。宜蘭、花蓮、台北など数多くの病院で手当を受けている。その中の10人は重傷。

### 慈済の慰問活動

- 物資の配付：救助現場と各病院に985人分の炊き出しと温かい飲料、ビスケット、パン、ミネラルウォーターの他、毛布40枚と多機能折り畳み式ベッド38床を提供。
- 病院と葬儀場への慰問：47人
- 臨時医療相談所での奉仕：34
- ボランティア動員数：延べ650人

の後方人員として夜を徹して事故現場に残った。深夜、ボランティアは作業員が冷たい地面に座らなくてもよいように、休息用の折り畳み式ベッドを提供した。

慈済ボランティアは平時から調理班と被災状況を調査する慰問班があつて地域毎に活動を行なっているため、重大な災害が起きた時は迅速に連絡を取りあつて、動員することができる。

今回の事故では負傷者が二百人を超えたため、宜蘭、羅東、蘇澳のボランティアが真っ先に慰問に向かったほか、十月二十二日には花蓮、基隆、台北などからのボランティアが引き継いだ。慈済人医会のボランティアも新馬駅現場で必要に

応じて、医療に関する情報提供を行うと共に、救助人員の健康管理を第一段階の救助活動が終了するまで続けた。

慈済人文真善美チームで記録担当をして十七年になる廖月鳳師姐は「今回、人の命は呼吸の狭間にあることをつくづく感じました」と言った。夜半、彼女は羅東事務所に戻り、煌々と付いた灯りの下で、追加の毛布を整え、出荷した。心が事故現場にあつて、負傷者や一瞬にして死別した犠牲者の家族が気掛かりで眠れなかったのは彼女一人ではないだろう。（注1）助念：死後直ぐに親族と共に念仏を唱える行為。通夜に近い行い。

（慈済月刊六二四期より）

## 無言の良師 野原敏裕

一人の献体者のことを知ってほしいと思う。彼の名は野原敏裕、出身は日本の北海道である。野原さんは元来無神論者だったが、證嚴法師の救済を行う姿と精神に深く感銘を受け、仕事の合間を縫って日本で慈済ボランティアに参加していた。日本在留台湾人の台湾帰国を支援したこともある。そして、命の最後には献体をして最愛の台湾に身を捧げたのである。

二〇一二年九月、野原さんと息子の惇

さんは、初めて手話による音楽劇「行願」のリハーサルに参加した。野原さんは毎週土曜日に仕事があり、なかなか練習に参加することができずにいたが、日曜日に日本支部を訪れ、六階で陳量達師兄<sup>スーシヨン</sup>から手ほどきを受けた。これが縁となり、ちようど仕事も余裕がある頃だったので、思い切って東北地方に同行し「行願」の公演に参加することを決めたのだった。鑑真和尚の志を以て演じることと東北の

人々を励ましたいと考えたのである。

二〇一五年に退職したあとは妻の曾瓊慧と妻の故郷台湾の花蓮に定住し、リサイクル活動に熱心に参加した。毎日七時に自転車資源回収所に出かけた。

ある日、慈済ボランティアが野原氏の自宅を訪問した。その日、彼は資源回収所で体の不調を感じ、ボランティアに手伝ってもらって病院へ行ったからである。検査の結果、悪性腫瘍があると分かったので、さっそく花蓮の慈済医学センターで診察するよう手配した。妻の曾さんは当時を思い出し、「医療スタッフの皆さんは優しい方ばかりでした。夫の気持

ちを安らかにしようと気遣ってくださいました。ボランティアの方々の寄り添いにも助けられました。本当に言葉では言い尽くせないほど感謝しています」と話した。病に伏したまま野原氏は往生した。享年六十四であった。そしてその体は献体により無言の良師となったのである。

息子の野原惇さんは妻とともに日本から式典に参加し、式の中で父を追悼してこう述べた。

「父は台湾をとっても愛していました。今日その最後の願いが叶えられたことで、人生を円満に終えることができたのだと思っています」

# 零下三十度の愛。

## 慈済大学模擬医学センター

慈済大学は、台湾ではかつて身元不明の遺体を教育に使用していた時代から、自ら死後献体する時代に進歩させたと共に、模擬医学センターを創設する機会を得た。

摄氏マイナス三十度で保存された「無言の良師」は臨床手術教育に使用されている。基礎的な救命処置から最新技術による手術まで、技術と人文教養を育むこの訓練センターはその資源を国内外の医学界と共有し、最も冷たく、最もホットな場所となっている。

文・葉文鶯 訳・済蓮 撮影・蕭耀華

●医師たちは模擬手術が終わると必ず、手術台の上の無言の良師に手を合わせて感謝する。「無言の良師」とは慈済が献体者を呼ぶ時の敬称であり、彼らが黙ってされるがままにメスを入れられ、医療教育に無私の奉仕をすることで、医学生を教導していることに対する感謝の言葉である。



医学を学ぶ者は、横で見て知識を得るだけでなく、人体の構造を知るために頭蓋骨や胸部を切り開いたり、内臓を取り出したり、筋肉や神経、血管の構造を理解する必要がある。人類の幸福を追求し、医学を進歩させるために、ネズミや兎、豚、犬などで実験を行うが、人体解剖は必須である。

慈済大学解剖学科の曾國藩教授は、講演でいつも西洋解剖学の歴史を紹介している。十六世紀のヨーロッパで、人類の謎を解くために初めて使われた「遺体」は、絞首刑に処せられた罪人や、新しい墓から盗掘された者、または家賃が払えなくなつて窒息死させれ、その遺体を売

られた間借り人であった。このように、解剖学の歴史はむごたらしく、悪名高く人々を怯えさせるものであった。

昔、台湾で解剖教育に使っていたのは死刑囚や身元不明の行き倒れのホームレスなどの遺体だったが、慈済が医学院を創設してから献体の風潮が広まった。中でもとくに慈済人が勇敢に献体するようになった。

生前、慈済を強く支援していた船会社のオーナー、李宗吉は、母親孝行で知られる。人生で初めて購入した船に母親の名前をつけ、母親が亡くなった後は山の上にお墓を作つて供養した。二〇〇二年、李宗吉の子供たちは父親の遺体を慈済大

学に寄付し、その翌年、模擬手術教材に使用された。火葬された後は、彼が大好きだった海に遺灰が撒かれた。

「企業家が生前、十億元寄付し、死後、献体した」。当時、新聞に大きく出た見出しである。しかし、李宗吉が一般と異なつた方法で自分を事後処理したことを誇示したわけではない。

「上人は彼の慧命の母であり、理念に賛同したゆえに献体したのです。それも彼の上人に対する愛と孝行なのです」と

●家族が肉親に別れを告げる。悲喜こもこももの無言の良師の起用式典。悲しみにくれる家族にとっては、あきらめきれない瞬間だが、手を離して初めて献体者の願いが達成されるのである。



静思精舎の徳禅師匠が李宗吉の献体について説明した。

献体は「五体満足な遺体」や「土に入って初めて安らかになる」という伝統的な観念を覆した。また、一般の仏教徒は、人は往生しても魂がこの世から離れていないため、最低八時間は動かしてはならず、絶えず念仏を唱えて助念した方がいいという観念を持っている。しかし、上人の呼びかけによって、多くの人が死後、無用となった体を医学のために提供したいと思うようになった。それが「無言の良師」である。

献体が増えるにつれ、慈済大学は中南部の教育用の遺体が不足している大学

と寄贈で協力している。二〇〇八年になって模擬医学センターが完成してからは、献体志願者は防腐薬による保存法のほかに、模擬手術教科用の選択肢ができた。

解剖学科が開発した冷凍保存法は防腐処理する必要がなく、冷凍保存された無言の良師は解凍された後、あたかも麻酔のかかった患者が手術台に乗っているかのように、医学生や医師に様々な手術の訓練を提供している。

慈済の「無言の良師」の話が海外に伝わり、二〇一二年、マレーシア大学は内視鏡センターを創設し、医療技術と人文など全て慈済大学模擬医学センターを見

習って作られ、そこから献体の風潮を導き出した。その学校が立ち上げた「無言の良師プロジェクト」に献体する人の大半は中華系の人だが、政府が遺体を配分していた従来の方法を変えた。

一般の病院では患者が亡くなる時、医師は遺体を家族に引き渡すが、慈済大学では医師が最後まで患者に付き添い、家族と対話できるようになっている。

献体は事後処理の選択肢の一つであるばかりでなく、そこからの過程を祝福するものだ。「君たちが私の体を使ってよく勉強し、良医となることを願っています」。しかし、家族は医療人員を必ずしも信頼しているわけではない。「家内が

生きていた頃、話を最後まで聞かずに医者には薬の処方箋を出していました」とある人が言ったことがある。家族としてはもともと多くの医者が患者の気持ちを尊重することに期待している。

模擬医学センターは、二〇〇二年に第一回目の医学生による模擬手術を行ってから今日で十七年目になる。模擬手術に携わった者は、慈済大学関係者から国内外の医学界にまで広がり、遺体という特殊な資源の共有は、専門技術の向上に寄与する以外に、人文方面の体験をしても行うことができる。医師が初心に帰り、医療と人文が並行して進歩することを願っている。（慈済月刊六二二期より）



●医師（右端）が内視鏡を操作している。内視鏡の扱いは難しく、微小な動作が患者に与える影響は大きい。無言の良師は実際の手術により技術を訓練する機会を新米医師に提供する。

## 訓練期間を短縮して良医を養成する

台湾で唯一の献体による遺体は急速冷凍保存され、無言の良師は医師に本当の患者への手術と変わらない最高の手術の学習機会を与えてくれる。

「無言の良師」の模擬手術課程で、医学生は緊急手術の基礎と自信を得る。ベテラン医師も手術の腕をさらに磨き、新たな技術を練習し、より高度な挑戦に立ち向かう。

文・葉文鶯 撮影・蕭耀華 訳・黒川由希

ライン川に沿ってオーストリアへ向かう

汽車の中で、林欣栄は窓の外の光景を眺めながら、ドイツで三日連続で受講した「鍵穴手術」(keyhole surgery) 内視

鏡手術の原理と方法について考え、大脳

臨床解剖について復習していた。

「台湾にはない優れたものを世界に学びに行く」。二十数年前、国防医学院教授の

林欣栄は、一流の医療技術を学ぶためには時間と金銭を惜しむことはなかった。



●今年6月、シンガポール、アメリカ、ポーランドなど海外の医学生も参加する無言の良師の起用式典が開催された。一年に4度実施する医学生模擬手術課程は、慈済大学の医学生以外に海外の姉妹校、その他の大学の医学生も見学できる。

従来の開頭手術では、頭蓋骨を切開し、病巣を摘出、鋼線で頭蓋骨を固定し、筋肉と皮膚を縫い合わせる。傷口がより小さく、リスクがより低く、患者の術後の回復も早い内視鏡手術のことを知った彼は、いてもたってもいられず、十五万台湾元の授業料を支払い、高価なヨーロッパ行き航空券を購入した。

セミナー四日目、世界各国から来た神経外科医がウィーン大学で、同大学の遺

体を使って実際の操作を学んだ。遺体はホルマリンで保存され、その他の部位はすでに使用済みで、セミナーに参加した医師たちは残された頭部を用い、複雑な神経や血管をいかに避けて安全に頭蓋底の髄膜腫、血管腫、脳下垂体腫等の手術を実施するかを学んだ。

医療技術と機器の導入に伴い、台湾の脳腫瘍患者は必ずしも開頭手術をしなくてもよくなった。術式を普及させるため、林欣栄は一九九八年、「第一回頭蓋底手術セミナー」を開催した。当時、台湾の各医大では解剖教育のための遺体が不足しており、海外から十二の頭蓋標本を取

り寄せ、医師四人に一つ、一回に四十人の神経外科医が練習した。

西洋医学の力を借り、輸入した頭蓋標本を活用して医療技術を向上させることで、林欣栄はより多くの台湾の患者を救うことができるようになった。彼にとつて最も幸福だったのは、二〇〇二年、鍵穴手術で父親の頭蓋内血管腫を摘出できたことだ。父親の眼皮上方にメスを入れ、側頭葉と前頭葉の中間に三センチの小さな穴を開け、病巣を無事取り除くことができた。

林欣栄が頭蓋標本を輸入して頭蓋底手術ワークショップを開催したのと同じ

頃、證嚴法師は病院を建設し、医学院も開設することになった。法師の呼びかけで、慈済医学院で使用される遺体は全て無償の献体を用いることになった。

## 一風変わった「師弟制」

「献体された遺体が分解されると聞くと、東洋では献体したいと思う人はいないでしょう」。慈済大学解剖学科教授兼模擬医学センター主任の曾国藩は、東洋と西洋の医学教育上の違いを指摘する。しかし法師の理念は社会の期待に沿ったものだ。二十年後の今日、外科医の先進

的な術式はますます高度化している。高価な海外のワークショップや、輸入した冷凍の胴体を使って実施する研究や教育もあるが、林欣栄にとってより便利な訓練センターは、慈済花蓮病院院長事務所から徒歩で五分の距離にある慈済大学「模擬医学センター」だ。

二〇〇二年、慈済大学医学部第二期卒業生に対して、模擬手術教育を試行。二〇〇三年、手術台八台を擁する模擬手術室を設置し、実習医師のための定期的な侵襲式臨床操作の教育と訓練が始められた。二〇〇八年、更衣室、機器洗浄室、計器及び医療機器保管室、イントラク

ティブ教室など、十全な施設を備えた、完全独立運営が可能な模擬医学センターが成立した。現在までに毎年八回模擬手術教育を実施、慈済大学、海外の姉妹校の医学生、慈済病院の外科医や国内外の外科医学会メンバーが参加している。

模擬医学センターには手術台が八台あり、機器は手術室の規格を満たしている。近年にはレントゲン撮影機器、ハイエンド超音波などが導入され、医師は画像や映像を基に正確な手術ができるようになってきている。

「模擬医学センターの資源を利用して、私たちは心臓の低侵襲手術など、多くの

手術を発展させてきました。患者は必ずしも開胸する必要はないのです」。慈済花蓮病院心臓外科医の張睿智は、慈済大学を卒業後すぐに同病院に勤務して今に至る。彼は模擬手術試行の一期生で、遺体解剖、模擬手術により外科の道に進んだ、慈済が育成した外科医である。

「無言の良師の身体で試すことで、実際の患者さんの身体で手術を行う自信ができます」。張睿智は最近三、四年間に心臓弁膜手術、冠動脈バイパス手術など、低侵襲手術の研鑽を積むことができたことに感謝している。

慈済花蓮病院ではダ・ヴィンチ・ロボット



●模擬手術室の外で、慈済花蓮病院心臓外科医の張睿智が無言の良師の家族に寄り添う。21年間無言の良師の家族からの励ましを受け続けてきた。今では互いに実の家族のようだ。

トアームを導入している。張睿智が冠動脈バイパス手術を行った患者は、手術の翌日には座って朝食を摂ることができ、こんなに嬉しいことはないと思患者本人も喜んでいた。

台湾からドイツまでは飛行機で十三時間、慈済花蓮病院から慈済大学までは歩いて五分。林欣榮と張睿智は世代も医学を学んだ背景も異なる。

張睿智は、本や雑誌、映像や専門医療ウェブサイトなど多くのルートを通して

向上させ、医師にとっての貴重な経験を積み上げていくことができる。

### 病人の安全を保証

二〇一〇年、慈済病院外科医の紹介で、台湾外科医学会は模擬医学センターでの模擬手術への参加申請を開始した。泌尿器科、耳鼻咽喉科、大腸直腸外科、脊椎外科などが前後して参加、林欣榮の所属する頭蓋底外科も申請を行った。

その後、慈済病院泌尿器科の郭漢崇、整形外科の陳英和は、医学会理事長の立場で、アジア太平洋医学会を台湾に招いて

て、手術の方法の知識を得ている。尊敬する師や先輩から直接教わったものだとしても、重要なのは実際に自分が実施する機会があるかどうかだ。

無言の良師は教育の「標本」であるばかりでなく、医師を徹底的且つ繰り返し練習させてくれる「教師」でもある。つまり、一風変わった「師弟制」であるということだ。

模擬医学センターの貴重な教育資源に慈済病院外科医の支援、そして多くの無言の良師の献身的な「参加」により、学生たちは緊急手術の基礎を固めることができるだけでなく、最新の術式で技術を



年次大会を開催。その期間にワークショップ方式で、慈済模擬医学センターでの学生の医療技術交流を企画した。ヨーロッパ、日本、東南アジアなど十数カ国から医師が集まり、台湾東部の模擬医学センターは、国際的な発展の可能性を拓いた。

「こうした医師たちの宣伝、技術の向上と拡大を通して、無言の良師は台湾人に福をもたらすだけでなく、全世界の人々を幸せにします」。郭漢崇はこう話す。

二〇一六年九月、内分泌外科医学会のメンバーが模擬医学センターを訪れ、最新の「経口腔甲状腺切除手術」を試みた。過去の甲状腺切除手術では、患者の頸

部に傷痕が残ることが多かったため、女性の患者の中にはスカarfを巻いて傷痕を隠す人もいる。頸部ではなく、腋の下や乳頭から切開する場合、ルートが長くなり、切開範囲も大きくなる。

内分泌外科医学会理事長の呉鴻昇によると、タイ警察総合病院ではすでに四百例以上の手術が行われ、台湾でも百例行われた。彼が視察したタイの病院の術式は、口腔前庭からメスを入れる方法で、腫瘍が四センチ未満の患者に適用され、術後皮膚表面に傷が残ることはない。だが口腔感染や神経への損傷を防ぐ必要がある。

「従来の手術方法と違う手術が、特殊な機材を必要とせず、回復までの時間も同じくらいで、合併症の危険性がより高くなるのでないならば、普及させる価値があります」。呉鴻昇は、「患者さんが手術方法を選ぶことができるよう、より良い方法を学ばなければなりません。医師は経験を積んでこそ、リスクを減らすことができます。慣れない手術により合併症を招くことを防ぐため、献体を利用

●慈済病院のベテラン医師が学生の基礎術式の練習を指導する。伍超群医師（左から2番目）の通常の手術はスピーディだが、指導の際は一つ一つ丁寧に模範を見せ、手術中の患者の安全について注意を促す。

して医師を教育しなければならないので  
す」と話す。

二〇一八年六月、模擬医学センターに  
六十数名のアジア太平洋脊椎外科医学会  
のメンバーがやって来た。幾度も模擬手  
術に参加し、チームを率いて参加した中  
国医薬大学付属病院台北分院副院長の陳  
衍仁は、「畸形矯正手術では頸椎部の危険  
性が高く、一般にはあまり行われていな  
い。模擬手術のメリットは、医師が新た  
な試みに踏み出せることだ」と指摘する。  
「内視鏡の操作は簡単ではありません。  
内視鏡は内部が長く、外部が短いため、  
微小な動作が患者に大きな影響を与えま

る。無言の良師は患者の生命の安全を静  
かに守っているのだ。

## 大きな本土意義

二〇一六年十一月、台湾大学と長庚病  
院整形外科チームが慈濟模擬医学センタ  
ーで顔面と腕の移植手術を実施した。

台湾大学病院整形外科医の謝孟祥は、  
顔面の火傷、交通事故、顔面の腫瘍で広  
範囲切除を受けた患者に対しては、この  
精密で複雑な手術治療が必要とされるの  
だと指摘する。模擬手術で重要なことの  
一つは、顔面神経の解剖学的細部を詳細

す」。慈濟台北病院低侵襲手術センター  
主任の蔡曜州は、泌尿器外科医学会で婦  
人尿失禁治療の「膀胱頸吊り上げ手術」  
を担当している。慈濟花蓮病院泌尿器腫  
瘍科主任の江元宏は、「先輩医師の手術  
はスピーディーで技術が優れています。こ  
の手術にかかる時間は長くはありません  
が、多くの細かい点に注意しなければな  
りません。そうでないと、手術後も尿漏  
れが続くのです」と話す。

「私は献体してくださった先生の身体  
で、三回ミスしました」。感謝追憶式で、  
医師は正直に告白する。このことは生き  
た患者の身体でのミスを防いだことにな

に理解することで、献体があつてこそ、  
一層一層を詳しく観察できるのだと言う。

当時、台湾美容外科医学会秘書長劉致  
和は、「慈濟の献体には『本土』という  
意義がある」と指摘した。台湾では過  
去、解剖学の課程では骨や頭蓋、頸部な  
ど、全て海外からの輸入標本を使用して  
いた。

「輸入した遺体の標本は西洋人種で、  
整形外科でよく行われる隆鼻、鼻骨の再  
建手術について言うと、東洋人と西洋人  
の鼻骨の高さは異なり、東洋人の鼻肉は  
より多いのです。人種が違えば血管の分  
布にも違いがあり、これは医学会が長く



●模擬手術終了後、参加した学生が恭しく無言の良師を入棺する。「無言の良師」による教育は医療技術と人文精神を兼ね備えている。「無言の良師の身体に敬意を示すことができるなら、患者に対してはそれ以上に敬意を持って接することができる」というのが医学生感想だ。

討論してきたテーマです。解剖による構造の理解は、手術の安全性にも関連します」。学会で長く討論されてきた疑問を解決することができたと、彼は慈済が機会を与えてくれたことに感謝の意を示す。

### 独創的手術実習

慈済台北病院一般外科医の伍超群は、

つけることを防ぐため、伍医師はすぐに学生に大学三年で習った「解剖学」を復習させ、メスを引き継ぐと、もう片方の手で腹部の皮膚を上部へ押し開き、一定の距離を取って下部に切り開かないよう注意するのだと指導した。

「患者の安全は何よりも大事です」と話し、伍超群は学生が先ほど不注意に傷つけてしまった腸への処置を行った。ミスにより傷ができた場合、すぐに穴を縫合しなければ、手術後に患者に腹膜炎等の症状が出て、再度手術しなければならなくなる可能性がある。

縫合は外科手術の基本である。腹膜上

慈済大学初期の模擬手術教育から、たびたび医学生の基礎術式を指導してきた。日頃の手術はスピーディな伍医師だが、メスと縫合針の操作の練習を開始したばかりの医学生たちの前では、辛抱強く一つ一つ丁寧に模範を見せる。彼が教えるのは技術だけではなく、学習態度も含まれる。

学生が覚束ない手つきで腹腔を切開すると、メスの跡が歪んでいた。力加減が分からないため、腹腔組織を開くと、メスが腸を傷つけており、空気がゆっくりと腸に侵入していることが分かった。

腹腔を切開した時に腹腔下の器官を傷



●肉体は死後腐敗するが、無言の良師は無用を大用に変え、良医を養成し、心願を成就する。

面には二層の組織があり、縫合する時は対称でなくてはならない。学生が糸を取り違えたり、縫合する層を間違ったりした時、伍医師は学生に、そうしたミスは術後の傷口の癒着に影響を与え、感染症を引き起こす可能性もあると指摘する。

「胸を張って、肩の力を抜き、手に力

を入れすぎない。顔を患者に向け、優雅に縫うんです」。伍超群は模範を見せ、手術台の高さを調整することにも注意を促す。また助手は絶えず執刀医を補助し、良好な協力関係を築いて手術を成功に導かなくてはならないと話す。

慈済花蓮病院産婦人科医の李佩蓁は、内診から正確な機器の使用による試験片採取、検査過程でいかに患者の負担を軽減させるかについてまで、子宮頸がんスクリーニングと産婦人科内診を指導す

る。また、婦人科でよく見られる卵巣腫瘍などについて、彼女は臨床解剖の位置を教授し、学生の実習を指導する。

「病院で患者さんの検査を行う場合、すべての検査について、必ずまず患者さんに知らせなくてははいけません。そうでないと患者さんは不安を感じます」と彼女は言う。

泰然自若とした無言の良師と熱心かつ辛抱強い指導医師の導きを得て、学生は熱心に見学し、自らの手で試してみることで、技術を獲得していく。これは台湾のその他の医大では見られない手術実習の光景である。

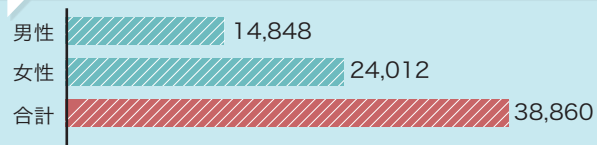
遺体はプライスレス

「人材育成にはお金がかかります。もし医師を海外の訓練に送るなら、高額の費用がかかりますよ」と、内分秘外科医学会理事長の呉鴻昇は言う。

慈済模擬医学センターでは毎年四回国内外の医学会へセンターの使用を開放している。自己の経済学理論に照らし、「私なら、絶対有料にしますね」と林欣榮は言う。利用者負担はどう考えても正しいはずなのだが、「しかし法師の理念は普通とは違うんですよ」と話す。

外科医学会が花蓮の慈済で年次大会に

## 慈済大学 献体者統計 2018年8月10日までの統計



## 献体済み 1996年～2018年8月

### 献体解剖教育

防腐処理された遺体を使用。教育の目的は人体全部の組織構造を観察、認識することで、医学部3年生の必修課程で、1学期間使用する。

**333人**

男性195 女性138

最高齢**94歳**  
最年少**16歳**

### 遺体模擬手術教育

模擬外科手術に使う遺体は、急速冷凍後自然解凍処理し、触感が生きた人間の手術とほぼ変わらない。課程で使用する期間は4日間。

**525人**

男性319 女性206

最高齢**101歳**  
最年少**14歳**

## 慈済大学 模擬医学 センター

2008年、花蓮市で設立される。  
年に8回模擬手術が行われ、若い医師たちは臨床技術を磨き、経験豊富な医師は手腕を見せている。  
対象者は慈済大学の医学生と海外の姉妹校及び海外の大学から申請した医学生、慈済医療体系に属する医師、台湾外科学会とアジア医学会のメンバーなどである。

参加し、いくら支払った、と言うのは、

調する。

学会活動期間に支払った宿泊費、食費、講師費用を指す。「模擬医学センターではいかなる費用も徴収せず、あらゆる一般医療機器を提供します。課程に参加する医師は特殊な医療機器のみ持参すればいいのです」。曾国藩は「無言の良師はプライスレスなんですよ」と強

献体者の大部分は證嚴法師の在家や出家の弟子である。彼らの見返りを求めぬ奉仕は、使用者と対価関係を結ぶことはできない。大愛の呼応で美しい善の循環を形成したい、曾国藩は慈済の創始者がこう考えているのだと理解している。

(慈済月刊六二二期より)

# 根拠に基づく医療で

文・葉文鶯 撮影・蕭耀華 訳・惟明

## 東洋の人文をいかに

### 模擬医学センター主任曾国藩

献体という篤志行為への登録が増えたことは、手術手技の教育と研究を躍進させるきっかけとなった。それは慈済医大の教育資源が臨床医学に及んだことを表し、学校の発展に大きく貢献することを意味する。

「ご献体にはまだ遺族との間に固い絆が残っており、少しの落ち度があっても、遺族にとって大変失礼なことになります」。模擬医学センターのメンバー全員が謹んで対応しているだけではなく、曾国藩が細かいところまで完璧を求める。

十六年前から手術手技研修の授業を担当してきた曾国藩は、保守的であった台

湾医学界の解剖教育を大きく変えたといえる。

かつては解剖実習の授業が自分の専門に関係する部位に進行したら声をかけてほしいと彼に頼んでいた開業医もいたそうだ。解剖学は医学生にとって基礎医学教養の一環であるだけでなく、現役の医者にとっても臨床の知識を得るために重要なのだ。

證嚴法師の医学教育に対する期待と熱い招致を断るのに忍びず、曾国藩は長年教鞭を取ってきた台湾大学での教授の地位を捨て、慈済医科大学に来了。彼は「解剖学」の権威であり、遺体保存の専門家でもあった。しかし、慈済医大は毎年わずか五十人しか合格者を出していないので、ご献体の使用量や保存スペースに限

界がある。彼は、早くも献体登録の要望を断りきれないという二つ目の問題に直面した。

どんな難題にも必ず解決法があるといわれる。海外では医師の臨床実験のために遺体を冷凍保存することを知っていたが、どこで冷凍保存の方法を学べばいいのか分からなかった。

定温で守護し、  
まるで熟睡しているように

野菜を冷蔵庫に長く置けば水分が蒸発し枯れてしまう。豆腐を冷凍してから解凍すると、豆腐がスポンジ状になり、穴



だらけになる。遺体をどのように冷凍保存すれば、常温に戻しても、柔軟性と弾力性を保てるのだろうか。

人間の体は七割が水分で占められているので、遺体を冷凍庫に入れる時、冷凍速度が遅いと解凍後の人体組織がスポンジ状になり、組織が押されると水分が外に浸透し弾力性を失ってしまう、と曾国藩は物理現象に基づいて説明した。

「唯一の方法は急速冷凍です。冷凍速度を早めると、体の水分は自然に一つずつ細かい氷晶（氷の結晶）になります。その細かさは顕微鏡でなければ見られません。氷晶は小さいので、解凍後でも、人体組織の状態があまり変わらず、生の

組織に近い状態に戻すことができます」。この推論に基づき、曾国藩は「遺体を「摂氏マイナス三十度以下」で急速冷凍することに決めた。そして、ご遺体が死後八時間内に解剖学科に到着し、処理ができるようにした。

急速冷凍後、ただ冷凍庫内で恒温保存すればいいわけではない。万一停電やその他の故障が起きると、温度変化を招く。

「ご遺体にはそれぞれの遺族との絆がまだ存在しているのですから、少しの手違いでも、多くの方に失礼のすることにになります」。それがないように、曾国藩は全てのご献体に温度センサーを埋め込み、冷凍庫の温度管理を強化した。温度

コントロールに少しの異常が発生すれば、休日でもすぐ警備員室に緊急連絡が行くように設定されており、二人の担当者携帯電話にも警報が送られるようになっていた。

手術手技の研修ではよく内視鏡を使う。傷口が小さくてすむからだ。一部の術式では腹部と内臓を分離するために空気を入れてから手術を行う。ご遺体の皮膚組織の弾力性が良くないと腹腔から空

●曾国藩は手術台が水平になるように念入りに調整する。解剖学科兼模擬医学センター主任として、無言の良師の授業が予定通りに行なわれ、かつ献体された方の遺族に失礼のないように、完璧を求める。

\*無言の良師：解剖と手術手技研修のために献体された方の尊称。

気が漏れるが、曹国藩のチームが用意したご遺体は空気漏れが一度もない。また、水分が多く含まれている眼球は、冷凍により膨張し水晶体が外れるので、しかるべき処理をしてから眼科医にご遺体の上で手術の練習をしてもらう。

「我々は他の場所でご遺体を解剖することもあります。時によって生体と著しい違いがあるものに気がつくこともあります」と台湾大学外科の謝孟祥医師がコメントした。輸入された冷凍のご遺体は一日しか使えない。以前は頭部が長距離運送により頭部片面が下向きに圧迫されていたこともあった。

「慈済医大のご献体はよく保存されてい

ます」。彼は慈済医大は献体の保存に関して高い技術を持っていると認めている。

透明度を尊重し、共同で見守る

一部の国では臓器の売買のマーケットが存在し、生体の臓器から死体の骨格、毛髪まですべてに値段がつけられ売られている。今の時代にもアメリカの一部の医学部においては、遺体の保存方法は解剖する側の利便を中心に考え、頭部から吊るされている。こうすれば、頸部の関節が開き、解剖しやすくなるのだそう。床の掃除も楽になる。しかしこのような姿を外部には公開できない。

慈済では人間本位の考え方にに基づき、無言の良師を横たわらせている。解剖教育における遺体の腐敗を避けるため、防腐液に漬けるのではなく、血管注射を通して防腐液を注入する。その後急速冷凍で保存されたご遺体は、室温に戻るとまるで安らかに寝ているように見えるのだ。研修講義は年八回行われている。起用式典の前、まるで手術前に担当医が家族に手術内容を説明するように、曹国藩はセンターを代表して遺族に講義の内容を説明する。

●曹国藩は医学生にご献体の保存室を紹介している。保存室は遺族以外に一般参観者にも公開されている。慈済医大の取り組みは透明なので、人々はその過程を理解することができる。



無言の良師の体には何回もメスが入れられ、破壊を受けなくてはならない。「これは三年生の解剖学の授業に比べて、メスの入れ方が一層徹底しています」と彼はその必要性を正直に遺族に明かした。「献体の提供があることで、医者や医学生は技術を磨くことができます。後日患者の体を練習台にしないで済み、傷害を最低限に抑えることができるということです」

「慈済の取り組みは遺族に監督になって頂き、遺族と交流し、高い透明性を保っています」。曾国藩は、慈済は献体を受けてから起用するまでの過程を誰でも理解できるように努めていると話す。

「なぜ献体できるのか」。医者や医学生は、家族訪問を通じて無言の良師の回顧録を書く時、よく家族の発言からその答えを見つけることがあるという。

「回顧を通じて無言の良師が歩んだ一生を知るとは、一種の生命教育でもあります」。これは解剖学の講義において前例のないことだと曾国藩は言う。家族との交流を通して、医者達は敬意と期待と感謝の意を表すことができた。

まるで本当の手術のように、  
真の体験が心に刻まれる

初期の慈済医科大学解剖学科には、二

人の献体処理係と一人の人文式典担当者しかいなかった。模擬手術講座の開講に応じて、特別に慈済病院の手術室からベテラン看護師の林姿伶と欧庭芳を招き入れた。彼女達は手術道具や作業の流れを熟知しているので、異なる学科のそれぞれの手術を考慮した上に、手術の流れがスムーズになるように、最適な科別順位で授業計画を立てた。

「無言の良師は患者さんその人です。手術室内では患者の置く位置に気をつけ

●家族の一員が献体した場合、家では喪に服しないので、一部の家族は何も起きていないと錯覚する。その後のお別れのための壮大な告別式を初めて経験する。





●無言の良師の起用式典は、明るくて清潔な手術  
手技研修室の中で行う。遺族が献体された方の死  
に顔を仰せる。精思静舎の法師、医者と医学生、  
慈済のボランティアがその犠牲の精神を讃え、感  
謝する。

なければいけません。時間が長引けば、  
手足と体が圧迫されて傷つかないように、  
シートで包んだり、カバーしたりし  
なければなりません。体の側面を手術す  
る場合は、無言の良師が落ちないように、  
しっかりと固定しないとけません。彼ら  
が痛みや抗議を訴えないからと言って、  
注意を怠ってはいけません」と林姿伶は、  
手術室での経験がない医学生に対し、母  
親のように注意を呼びかけている。

ベテランの外科医により手術台に出さ



●医者や医学生は敬虔な気持ちで無言の良師を棺  
に入れる。これは遺族にとっても稀な経験である。  
このような人文的体験は手術者の記憶に残り、感  
情の交流を呼び起こす。医療の学習は冷たいもの  
でなくなった。

れた組織は、その後ご献体を縫合すると  
きに全て元に戻され、完全な体にするこ  
とを心がけている。必要に応じて手術者  
を助けると同時に、手術者が正確かつ敬  
虔な態度を保つよう、常に注意を喚起し  
ている。

このセンターにはグラフィックデザイ  
ンと映像編集、そして解剖学の専任助手  
を含めて、八名のスタッフがおり、それ  
ぞれの役割を果たしている。手術手技研  
修の期間中は宿泊、食事、そして交通の

便宜など遺族のニーズに応える。さらに、手術講義のための録画、アルバム作成、霊柩車の装飾、告別式の録画とその映像編集など複数の職務を兼任している。講習中は清掃業者による手術室の掃除ができないので、スタッフは交代で受講生が休みを取っている間を利用して掃除も行っている。

「お互いの職務をカバーしあわなければ、このような任務を果たせる強力なチームになれません」「無言の良師がそこに横たわっている、そのこと自体が『奉仕』です。無言の良師の願いが叶うように、センターのスタッフも精一杯努力します。このように互いの気持ちを引き出

し、力を合わせて何かを成し遂げると、大変ポジティブになります」

二〇〇二年五月に行われた最初の研修のことは、今でも忘れられないという。本来、無言の良師は四人の予定だったが、急遽献体される方が一人増えた。

四十一歳の女性は慈済のボランティアだった。事故後、慈済大学に搬送された時は、すでに模擬手術の一日目の講義が始まっていた。曾國藩は女性の夫と子供に会った。

「息子は中学生と高校生でしたが、彼らの表情は落ち着いて見えました。むしろ、私の方が気持ちが乱れてしまいました。彼らは慈済を信用して、一週間や一

カ月間の冷凍をするために、女性を慈済に搬送しました。短い間ですが、家族にとって気持ちを落ち着かせるための一時なのです。この女性はまだ慈済大学にいらつしやいますが、その時がきて、遺族が大切な家族を我々に手渡して家に戻ったら、大きな喪失感を経験することでしょう。ご献体は研修のために我々に手渡され、手術台の上に寝かされています。遺族はむしろ部外者になったといえるの

●慈済医科大学の大愛ビルの前で撮った模擬医学センター・スタッフの集合写真。曾國藩（右から4人目）が率いるこのチームは少数気鋭だ。無言の良師の貢献的な精神を見習い、スタッフ全員それぞれ職務を果たしながら互いに助け合い、力を尽くしている。



ですから」曾国藩は遺族から哀しむ時間を奪ったことを自覚している。

「なぜ遺族はご遺体を手放すことに同意するのでしょうか？ それは献体しようとする本人の意思が他の雑念を圧倒したからです」。曾国藩は、あの女性の子供たちの落ちついた顔から、自分が担う荷の重さを強く感じ取ったのだと語った。

疲れ果てた心、初心に帰り温まる

「ご遺体を最高の状態で保存できるならば、手術の技術は大いに発展し、台湾だけでもニーズは大きいのです」。曾国藩の予想通り、模擬医学センターはトレ

違ふものだ。

「医者として命の意味と価値は分かっているても、長く現役の医者が続けていると、その意識が薄くなりがちです。このように命は尊重されるべきだという体験をすれば、自ずと心境が変わります」と曾国藩は言う。

イギリスの医者でヨーロッパ泌尿器科学会の事務長であるクリストファー・R・チャップルが二〇一六年八月、泌尿器科学会の招待を受け、模擬医学センターで講師を勤めた時、無言の良師の貢献に共感し、講師の報酬を模擬医学センターに寄付した。ブラジルの医者デイドロト・ログリガス・パレイラは、寄付

ーニングレベルを向上させ、対象を医学生から慈済病院の現役の医者へ、そして国内外の各科の専門学会にまで広げた。アジアパシフィック医学会の年度学会では、ヨーロッパや日本の精鋭が講師を担当し、研究を交流するようになった。

「我々は慈済が持つっている特殊な資源を医学会と共有し、提携や協力の関係を結びました」。曾国藩によると、参加する医者の多くは、自国でこうしたトレーニングを受ける機会やトレーニングの費用を負担できるとは限らない。医学会の医者は専門技術を習得するために来ているが、慈済医科大学が提供しているのは、彼らが養成過程に経験した解剖とは全く

ただけではなく、後日、慈済が同国で行う無料診療に自発的に参加する意思を表明した。

「模擬医学センターは慈済の『究極の利他』の道場です。慈済ボランティアは生きている間に他人に奉仕し、往生後は献体をします。今年六月までの統計によると八割の献体者は慈済ボランティアです」。曾国藩は模擬医学センターが単なる教育施設だけではなく、この世において仏法を究極に実践する場所であり、慈済の特色でもあると話す。

「教育訓練のほか、遺族に対し真心と尊重の意を表しました。長年にわたり多くの学びがセンターの中で固く伝えられ



●医学生と遺族が一緒に無言の良師の遺骨をガラスの壺に入れる。命の最後に残ったものは薄くて軽い、この世への置き土産は貴いものだ。

ています」。メスを入れるだけの西洋医学から東洋の医療人文に転じるにあたっては、相当な力を費やさねばならない。

「医大生は恵まれた子供で、医者はずいぶん無駄なことをしない人達です。ただ、遺族の小さな願いを聞くと、いくら忙しくてもそれに動かされます。これは遺族に対する尊重とは違う一層上の意味を表しています」。技術の問題は簡単に克服できるが、人文的な学びを得ることは簡単ではなく、まして強要することはできない。



●無言の良師の遺骨が入っているガラスの壺を棚に上げてから、ボランティアは感謝する。

年一回だけではなく、献体の起用、告別にあたっては毎回初心に戻る。シンガポールの医学生である林宛嬋が曾国藩の人文式典についての説明をしてから、ある医者の話を思い出した。この医者は毎日百人以上の患者を診ている。

「医者も疲れる時があるので、全員を細かく診察できるとは限りません」。研修の授業を経て、彼女は「私は患者を家族と見なし、例えば百人がいても、唯一の患者として診ます」と心に感じたことを言った。曾国藩はこのような答え

## 献体に関するQ&A

Q

献体者となるにはどんな条件を満たさなければなりませんか？

A

・伝染病の感染から学習者と教師を守るために、献体する前にまず血液検査をしなければなりません。病気によるむくみ、骨格の萎縮、あるいは過度な肥満や痩せ過ぎ、及び生前に大きな手術や臓器摘出をした人は献体できません。また、溺死、自殺、十六歳未満の人及び家族が同意していない提供者も除外されます。

Q

献体するにはどういう手続きが必要ですか？

A

・献体希望者は、インターネットで慈済大学「献体室」にアクセスし、「献体志願書」に記入して送れば、大学で確認後、「献体同意カード」が送られてきます。または、台湾北部の七つの医科大学の献体センターに連絡するか、中・南部地区では各医科大学にお問い合わせください。

提供者が危篤状態となった時、家族から献体先に連絡してください。

文・葉文鶯 訳・心嬋



●無言の良師の告別式で静思精舎の法師が皆をリードして祝福をする。献体活動の普及、一連のセレモニーの準備に当たって、慈済の法師達は最大の後ろ盾になった。

に大変満足していた。

英オックスフォード大学社会科学のピーター・クラークス教授が慈済医科大学を二度訪れた際、曾國藩がアテンドした。「医学は西洋から東洋へ伝ったことは実証されているが、今は人文を含めた医学教育が東洋から西洋に伝わりようとしています」。慈済の取り組みを目にしたピーター・クラークスは、感動を隠せない様子でそう語ってくれた。

(慈済月刊六二二期より)

い。もし慈済大学に提供するのであれば、学校側が提供者の居住地の慈済ボランティアに連絡を取り、提供者の身体状況を評価してもらうと共に、家族に献体の過程や手続きなどの説明と支援をしてもらいます。もし病状の急変で、夜間や休日の場合は、花蓮慈済病院の代表番号（03）－8561825をダイヤルすれば、担当者が連絡とサポートを行います。

献体には死亡届が必要であり、患者が退院して家で死亡したり、病院に到着する前に死亡した場合

Q

は、病院が死亡診断書を出せないため、警察に届け出ると同時に保健所にも連絡を取って、献体時間内に死亡診断書を取得してください。手術したことがあれば、献体者になれないのですか？

A・

志願者は献体のために、病気の有効な治療を放棄する必要はありません。たとえ手術しても傷口の癒合がよければ献体できます。また、がん患者が化学治療や放射線治療を受けても、献体に支障はありません。

Q

基礎解剖と模擬手術はどう違うのでしょうか。用途を指定できますか？

A・

「遺体解剖学」は医学部三年生の必須科目で、人体の構造を理解するのに役立ちます。遺体は亡くなつてから二十四時間以内に慈済大学で防腐処理をしなければなりません。献体は提供された順に、通常では四年目に使用され、その翌年に火葬されます。

「遺体模擬手術教科」は、慈済大学が創設したもので、外科手術を完璧に模擬したものであり、遺体

を六年生と七年生の医学生や医師の学習に提供しています。遺体は亡くなつてから八時間以内に慈済大学で急速冷凍処理をする必要があります。提供された順に、通常はその翌年に模擬手術用に提供され、四日間の教科を終えて、五日目に火葬されます。

「献体」は、保存スペースの空き状況や提供者死亡時の健康状態から献体に適しているか、また、教科の用途に適しているかどうかを見極めた上で決めます。

（参考資料・慈済大学献体室）

# シヨッピングカートの中に 何を入れましたか？

自分のシヨッピングカートをのぞいてみましょう。

天然食材と加工食品の比例はどうなっていますか？

加工食品は避けづらいものですが、天然食材が代わりになるのでは？

そんな食物を食べなくてはならないかどうか、

実は私たちには選択の余地があるのです。

六歳の娘の睿佳は明るくいつも笑顔で、人を見るとあいさつをするので、大

人は果物やお菓子などをくださいます。先日のクリスマスに、私たちがよく行く

菜食レストランで精進料理を食べた時、レストランのおかみさんは睿佳にきれいなカップケーキをくださいました。ケーキのうえにはミルクで作ったクリスマスツリーがのっていました。

家へ帰ってから、睿佳がボックスを開いて仔細に観察して、「このミルクのクリスマスツリーは食べられるの」と聞きました。次の日の朝、流しにカップケーキの上のクリームがこぼれていたのを掃除をしました。目が覚めたばかりの睿佳が、そのケーキミルクの緑色をしたクリームをじっと見ていました。

当日の午後、姪が私にジンジャークツ

キーを持つてきてくれました。その上に、同じ緑のクリスマスツリーのお菓子もあり、睿佳はその包装を解いて、「お母さんはジンジャークツキーの上のクリスマスツリーを食べる勇気がある？」と聞きました。

私が頭をふって真面目な顔でいると、彼女は「カップケーキの緑が、一晚過ぎてもまだ緑だから、顔料が入っていると思うわ。健康に良くないみたい」と続けて言いました。

「その上にあるクリームを取り除きましょう。ジンジャークツキーだけならいいんじゃない」と私は答えました。

睿佳は私を見て、スプーンでゆっくりクリームを取り除いて私に聞きました。「お母さん、ジンジャークッキーのクリームも、カップケーキのクリームも、体に悪いから捨てるなら、どうしてわざわざクリームを加えるの？ 無駄ではないの？」

私はこの生活上の小さな出来事を、栄養士の友人に聞いてみました。彼女は感慨深げに、「子供は大人より影響を受けやすいものの。大人はこだわりが強く、容易に自分の習慣や価値観を変えられないけれど。そうだと分かっているも、実際に行動には移せないのよ」と言



いました。栄養士でも、きれいな色のケーキや炭酸飲料、ソーセージなど、添加物の問題にこだわらない人もいます。

大勢の人は私に「あなたは栄養士だから、子供の健康に良い食べ物かどうか一目で分かるでしょう。いくら食品に成分表示が書かれていても、私たちはそれを見たってよく分かりませんよ。何が健康に害があるか知らないのです」と言いました。

この話は半分正しいといえます。家に栄養士の母親がいるからといって、子供の体が健康になるわけではありません。私の観察では、医療関係者であっても、

健康な食事を重視しない人がたくさんいますから。

みんなから相談を受ける度に、多くの食品が天然のものではないと話しています。大部分の食品には添加物が入っているの、今は大勢の人がいろいろな慢性病にかかりやすいのは確かです。では、どうして病気になる人もいれば、ならない人もいるのでしょうか。

週末にスーパーへ行って食材を買った後、レジに並んでお金を払う時、職業病の私は人のショッピングカートの中にどんな食品があるか見てしまいます。大部分は美味しそうな加工食品です。ほかに



慈済国際・モサンビーク

## 出発！ ゴミ山の住民が スーパーに行く

◎文・モサンビーク人文真善美ボランティア  
撮影・Jose Carlos Mathambene 訳・本誌

今までゴミ捨て場で廃棄された日用品や残飯を拾って生活していた彼らゴミ山の住民にとって、家族のためにスーパーに買い物に行くのは初めてである。  
愛の買い物券を手握りしめ、感動と喜びに溢れながら出発した。

加工肉類、スナック菓子、ドリンク、インスタントラーメン、砂糖とクリームの入ったドリンクに冷凍食品など……。多くの人は、天然の食品を買う比率が低いようです。

自分のショッピングカートには、七十%の食品は天然な穀物、果物と豆、ナッツ類が占めています。そのほかの加工食品は豆腐と大豆加工食品、豆乳、ビーフンなどです。

ここまで書いて、私は何人の読者が自分のショッピングカーの中に置かれた天然食品と加工食品の比率を比べたことがあるか、とても興味が湧きました。加工

食品は避けられませんが、もし、栄養価値が少ない加工食品が多いと思ったら、天然食材を代わりに使えるのではないですか？ よく考えてほしいものです。

健康に関心を寄せる読者は、健康な飲食の鍵がバランス、多様化、新鮮な天然食材であることをご存じのことでしょう。幼い子供は心から疑問に思い、食べられる、または、食べられないとの決定をしたのです。私たち大人は子供の模範になっているでしょうか？

(慈済月刊六一六期より)

モサンビークの首都マプト市郊外にあるゴミ山の崩壊事故の被災者を収容する避難所では、朝から拍手と歓声が聞こえた。この日、とうとう本当にスーパーに行くのだ。

ゴミ山が二月に崩壊してから、被災者は家族を含めて何もかも失い、避難センターに暮らしていた。慈済ボランティアは途絶えることなく彼らの世話を続け、何度もやって来て温かい食事と物資を提供した。四月十日、住民に買い物券を配付し、ボランティアは券の使用方法を説明した上、市内への買い物のためにバスを用意したが、被災者が集団で外出する

には事前に政府に申請する必要があったため、延期になった。

「不満ではありませんか？」と聞くと、皆「NAO!（ポルトガル語で『いいえ』と答えた。「あなたたちが感謝と尊敬と愛を教えてください」という声が聞かれ、ボランティアたちは感動した。

被災者は慈済人を信じて忍耐強く待った。四月二十四日、ボランティアたちが再びやってきた。出発前夜、酒を買って酔っ払った夫が家庭をないがしろにした寸劇を見せて、買い物券を大切に使うことを教え、会場にいた女性たちから大きな反響が返ってきた。ボランティアは皆



に「全世界の慈済人からの愛を込めたものだから、責任を持って、大切に使おう」と励ました。

皆が次々にバスに乗り、買い物券が入った封筒を強く握りしめ、歌声が外でも聞こえた。「慈済が災害発生後一日目から今に至るまで、愛で寄り添ってくれているほか、具体的な支援で家を再建する力を与えてくれた」と被災者のカルロス・ピントさんが言った。

マプト市中心にあるチャイナタウンのスーパーで、現地ボランティアがこの

●ゴミ山の被災者たちは歌いながら、ボランティアの誘導でスーパーに入った。

客人たちを出迎えた。さあ、買い物  
のスタートだ。

希望を満載した  
ショッピングカート

被災者たちは車を降りた後、歌って踊りながらスーパーに入って行った。気持ちが高ぶっていたが、先を争うことはなかった。十人から十五人が一組となって、ボランティアが同伴し、家庭毎に必要な家庭用品を買った。

皆、ショッピングカートを押したり、カゴを手にして、棚に近づいて商品を捜

した。二カ月もテント住まいだったアメリカさんは、十三枚のトタン板を買うことにした。「いつ家を建てられるかわからないけれど、トタン板で取りあえず子供のために小さい家を建てたい」と言った。

買い物券は家族構成によって金額が異なり、日本円で八千円から一万二千円まで様々で、タバコと酒以外の各種の品物や建材を買うことができる。

以前、ゴミ捨て場で棄てられた物や残飯を拾って生活していた多くの住民にとって、家族のためにスーパーで買い物するのは初めてである。椅子や鍋、お碗、

洗面器、清掃道具などを買った。精算した時、皆大喜びで、ボランティアたちに向かって、「慈済は約束したことを守ってくれます」と言った。

●貧しい現地ボランティアは自分よりもっと苦しい被災者に梱包や搬入の支援をした。(下図)  
●グループに分かれて家庭毎に必要な物を買った。(左図)



七十一歳のロジタさんはゴミ山崩壊事故で自分と二人きりだった孫娘を亡くし、肉親を亡くした悲しみに陥った。彼女は、「慈済が我々に懷疑心から温もりのある触れ合いを取り戻させ、この世に戻してくれたことに感謝します。一番感動しているのは、慈済が一度も離れることなく、私たちの世話を続けていることです。上人は私たちに心と道徳的な糧を与え、ボランティアは毎日、美味しい菜食料理を持ってきてくれます」と言った。ロジタさんは、「慈済は我々が最も必要としている蚊帳と毛布、バストイレ、清掃用品を提供してくれました。一番感

動したのは買い物券で、再び生活に立ち向かう力を与えてくれました」と言った。奉仕する機会を逃さない

レジの前で、二人のボランティアが中華系の店員と一枚一枚買い物券を数え、もう一組のボランティアは住民を品物を梱包する区域に誘導した。

現地の実業家、陳祥沢さんは、二台のトラックを無償で用意して、買い求めた物品を避難センターまたは、慈済会所の倉庫に運んでくれた。残しておいた使用済みのエコ毛布のダンボール箱が役に

立った。ボランティアは丁寧に梱包し、搬送した。ダンボールに入っていたのは多くの家庭の希望である。

五十九歳のボランティア、マリアさんは、この二日間、給料の高いベビシッターの仕事があつたが、手伝いに来ることにした。「奉仕する機会は大切にしたいの。収入が減っても構わない」と言った。

包装チームのボランティアは一刻も休むことなく包装作業を続けた。事前に用意した各家庭の名札をつけて、防水テープを貼った。八十二歳のアマンドさんは、昼御飯を抜いてでも最後までやり終える

と言った。ボランティアから「上人の言うことを聞いて健康に注意してください」という説得でやっと、午後四時過ぎにその日の第一食を摂った。

買い物する間、被災者とボランティアの間に暗黙の了解があり、非常に秩序正しかった。ボランティアは、心から愛で関心を寄せれば、愛のある善良な本性を啓発できることを深く体得した。二カ月間寄り添った結果、二〇一五年初めにゴミ山を訪ねた時の住民の悲しみはもはや感じられなかった。

多くの被災者は積極的に竹筒貯金箱を持ち帰り、「ボランティアは感謝、尊重、

●竹筒貯金箱を手にして楽しく歌い、踊った。

愛を教えてくれました。将来、私もボランティアになりたい」とイザベルさんが言った。

被災した百九十四世帯は、グループに分かれて、四月二十四日と二十五日の二日間にショッピングを終えた。事前の準備から最後の梱包まで、現地ボランティアは朝の四時過ぎに出発し、深夜に家に帰るまで忙しく働いた。災害の緊急支援は、買い物券によるショッピングで一段落し、次は毎週、野菜や果物を安置センターに届ける。

(慈済月刊六一九期より)



## 愛は身近にある

敬愛する上人様へ

マプト市にいる私たちは、台湾にいるあなたとこんなにも近いのですね！ 私たちに生活を取り戻すことを教えてくれたことに大変感謝しています。今、私たちは「真の幸せ」を理解しました。「他人を愛して許し、盗みや略奪、殺生、うそをついてはいけない」と。あなたは私たちの習気を理解し、正しい道に導いてくださいました。

あなたの愛は私たちから離れたことはありません。聖なる主の御名の下に、真摯な歌声であなたに感謝を捧げます。私たちが流したのは喜びの涙であり、あなたの支持と導きがあれば、もう悲しみや苦しみはありません。敬愛する上人様、我々の尽きない感謝の声を、聞き届けてくださいましたか。

私たちは家族や家を失くしましたが、慈済が携えてきた愛と慈悲に心より感謝しています。一番良い感謝の方法は、竹筒貯金の精神を広め、集めて、他の人を助けることです。あなたの教えを守ります。

あなたを敬愛するモサンビークの住民一同より



【證嚴法師のお諭し】

◎訳・慈願 絵・林淑女

時は一秒も待ってくれない  
私たちは四諦から離れずに

衆生のために、日夜疎かにせず

生涯、四大志業を「やり遂げる」

但し説法の心は終わらずにいる

長

い距離を巡礼して回り、今回の  
行脚が終わって精舎に帰り着い

た時は、すでにひと月が経っていました。  
た。花蓮駅のホームに降り立った時、  
暦は七月の八日になっていて、私は  
心の底から喜びが沸き上がり、出発

時の重い足取りは軽くなって帰って  
きました。

病を抱いたままに出発した西部行き  
の一步一步は、本当に辛いものでした  
が、帰り着いた時は心の底から軽く安  
らかになっていました。花蓮慈済病院  
の林欽榮院長が傍へ来て、「師匠、お  
元気になられましたね」と言葉をかけ  
てくださいました。その実まだ疲れは  
残っていましたが、心には喜びと感謝  
が入り混じっていました。

感謝しているのは、どんな時にも私  
の話を真面目に聴いてくれる弟子たち

のいることです。北部、中部、南部を廻って花蓮へ帰るまでの間は、毎日のように法に精進する弟子たちの姿が見られました。熱心に法の修行をしている人たちにも、私に法の見返りを与えてくれている弟子たちにも、慧命の成長があることを喜んでいきます。

時は情けを留めてくれず  
遺憾あるのみ

しかし慈済の大家庭には  
無限の安逸がある

帰ってきた時、多くても二三日休

私は平常のように忙しく、時を無駄に過ごしていませんが、空虚感に襲われ、生涯「やるべきことはやったが、説法は終わっただろうか」と日々自省しています。

一九六三年に、私は帰依戒場に入る時刻が迫っても帰依を受ける法師がいなかった時、印順導師はすかさず私を弟子にしてくれました。私は儀式通りに跪いて頭を地につけ三礼した時、導師は「仏教のため、衆生のため」の二言を下さいましたが、私は終生かけてもまだそれを為し終えることができません。

んでから「朝の説法」を始めようと思っていました。この休息が二カ月近くになってしまいました。その日一日をどのように過ごしたかを毎日反省すると、また気がせいいて「私は明日の早朝、本殿で説法が出来るでしょうか」と考えたものです。

最近あちこちの国々で多くの災害が発生しています。台湾でも水害が発生した時、朝の説法だけでなく、ボランティアの朝会の時にも、戒に慎み謙虚であるよう丁寧に注意することが不十分であったのではないかと、私は失望感に襲われました。

慈済は設立してから五十二年あまりの時間を、ほとんど四大志業に務めることに注いでいました。『四十二章経』、『仏遺教経』、『無量義経』、『薬師経』などの説法は、忙しい中でも途切れ途切れに続けてきましたが、時には何カ月も休むことがありました。時間があればすぐに把握して三日から五日の間に一段を話していましたが、しかしながら経文は連続して話すことができませんでした。あわただしい生活の中で、募金、企画、工事、人事のことなどに時を費やしていました。

病院建設の期間は、どうすれば少し

でも資金を集めることができるかと、そればかり考えていました。当時の信者はお年寄りが大部分で、雑務をしている人が多く、彼らはやつと稼いだお金で家を買う人や商売を始めようとする人たちでした。その貴重なお金を私の病院建設に惜しげもなく献金してくれました。お金は後でまた稼げばいいと言つて。

さまざまな仕事に従事していた人たちは、献金をして何に拘泥することもなく自分の職に勤しみ、私は彼らに会う機会もありませんでした。しかし

この徳、情と愛は私の記憶に深く刻まれています。

そして五十年来私と志を一つにして歩いてきた古参の老委員たちは、私の志す四大志業である慈善、医療、教育、人文にとって欠かすことのできない人たちでした。もしも彼らの熱い支持がなかったら、今日の成功はなかったでしょう。四大志業にとって彼らの力は不可欠でした。

この度の行脚で会ったこの人たちは老いて変わり果て、その姿はまるで私の鏡のように見受けられました。そし

て、「誰々はどうして見えないの?」と聞くと「認知障害で人の見分けがつかなくなりました」「誰さんは?」「寝たきりになりました」と言う答えばかりでした。

時間は情け容赦なく過ぎ去ってゆきます。一年二回の行脚で会いたい人に会えない遺憾、会っても頭髪は白くなり、歩く時は人の手にすがり背中丸くなっています。これが現在の私の弟子たちの姿です。当時は健康な壮年で私について歩いてくれましたが、しばらく見ないうちにどうしてこんな姿に

なってしまったのでしょうか?

「今は誰と住んでいるの?」「一人でを気楽に暮らしています」「不便ではないの?」と聞くと「姉姐、<sup>スーシェ</sup>師兄<sup>スーシェン</sup>たちが世話をしてくださいます」との返事が帰ってくる時には、私は法の同門たちの労りに感謝しました。子供たちの成長を親たちは望みながらも、進学のために異郷へ送り出し、どんなに可愛がっても帰って来るでしょうか? 他郷に縁があれば結婚して自分の家庭を築き、たまにしか帰ってこられません。息子は事業のために、

妻は子供たちの世話に明け暮れ、そんな時やはり同門の温かい思いやりが必要です。

「私は慈済に入ってよかった。師兄師姐が世話して下さるから」と最近よく聞かれます。また「私が病気になった時、師兄が車で病院へ送ってくれて、入院の間は師姐たちが世話して下さって感謝しています」と。なんと親切に温かい交流でしょう。慈済は単なる道場ではなく、同門の大家族です。いつもこんなことを聞く度、心が温かく感謝に満ちます。

には三つの慈済病院があつて、西部にも三つの慈済病院があります。私は医療スタッフ全員が心を一つにして、慈済の人文を喜んで受け入れていることに感謝し、常に自分は幸せ者であると喜んでいます。

教育の方面でも同じように、この大時代の環境のもとに慈済は依然として、優秀な教育品質を保っていることに感動しています。また、人文は善事を伝えると共に法を広める工具でもあります。現代のテクノロジーや大愛テレビを基礎として、精舎で行う「早朝の説法」

大道から法髓に入れば

誠の本性に帰る

日々精進すれば

慧命を成長させる

半世紀以来、慈済の慈善工作は地球半数の国々に及び、一粒一粒の慈悲の種をまいています。人は慈善を必要とするだけでなく、その上に庇護が必要です。「病氣のために貧しくなる、あるいは貧しいために病氣になる」ことがあります。貧を防ぐにはまず病を治さなければなりません。現在台湾の東部

はインターネットによつて十カ国以上の地域へと流され、即時に仏法を伝えることができます。

この多忙な生活の中で、法が欠如しているように思われる今日に、無駄な日々を過ごすことは、私たちにとって遺憾なことです。しかし、よくよく思いますと、時は一分一秒も待つてはくれませんが、その実すべては「四諦法」から離れることはできません。

毎日多くの衆生に向き合つて、苦とは己の「集」より来るものと伝えていきます。彼らに放下の方法を教え、「分か

りましたか？」と聞けば、「はい、分かりました」という返事が返ってきます。しかし、ただ分かっただけでは足りず、「苦、集、滅、道」をさらに進めて身体で以て励み、「道」を実行しなければなりません。

もしも苦を消化しなければ、どうやって前へ進むことができるでしょうか？多くの試練にあった時は、やはり感謝の気持ちをもつて前進することが、仏に学ぶ仏法の心です。苦はもともと形がなく、つまりそれを超脱しなければなりません。手段を講じて他人を苦境から解き離れた時、慈悲喜捨として

当たり前と感じ、見返りを気にかけなければ、心に憂いはなく清々しいものです。

さらに進んで群衆の中に入り、広い心で、請われなくてもその師となつて、助け、寄り添い、また多くの人を教え導き、世の様々な事を道理に合わせる、と、着実になることができます。

真如の本性に戻つて、法髓を継続させると私たちの慧命は成長します。一日の始めにあたつて、皆さんが真面目に「朝の説法」の時間を休みなく聴き、精進しますよう期待しています。

(慈済月刊六二三期より)

#### □ 静思語

### 後ろから前の一秒を押し出す

## 時

間が過ぎ去るのは早く、後ろの一秒が前の一秒を押し出します。もし、

一秒ずつ無駄に過ごしているのであれば、一日を無駄に過ごすことになります。生きていく間、毎日、一秒たりとも無駄にせず、人生の時間を大切に使うべきです。



卓蘭での山暮らし  
医療スタッフが我が家に

卓蘭鎮は台湾苗栗県の最南端に位置する辺鄙な町である。

山間部の道路は整備されているが、

体が不自由な人は、車を運転できないうえバスにも乗れないため、

出稼ぎの若者が家に帰った時に病院へ連れて行ってもらうか、

あるいは毎月の訪問ケア医療スタッフを待つしかない。

「部屋にいますよ」。今年の六月三日

の朝に、中部の慈済人医会のメンバー

が卓蘭鎮坪林地域へ施療に行った時、

七十四歳の徐おじいさんは室内のベッドに横になっていたが、外で車のドアを開める音が聞こえると、すぐ大きな



声で皆に挨拶した。家にいな  
いと皆に思われてしまうと心  
配したからだ。

慈濟人医会のメンバーが、毎月この日尋ねに来てくれるのだ。徐おじいさんの奥さんはいつも家のリビングで待っているが、今日はドアが開いたままで姿が見えなかった。

中部の慈済人医会のリリーダである紀邦杰医師は、暗い部屋

●慈済人医会とボランティアは、定期的に卓蘭の山間地域へ施療に行つて、長年一人暮らしをしている人の家を訪問している。皆を引率するのは卓蘭鎮でクリニックを開いた卓錫彬医師（一番右）で、患者の病状をしつかりと把握している。

に入つて、手作りのパンを徐おじいさんの手に渡し、「奥さんはどこにいますか？」と聞いた。「娘が二週間前に老人ホームへ連れて行つたのです」という話を聞いて皆がびっくりした。認知症、糖尿病とパーキンソン病を患っている奥さんは、慈済

人医会が前回来て帰つた後、いつもつまずいて転んでいました。嫁いだ娘がそれを心配し、苗栗の高齢者養護施設に入所させたのだという。

十八年前から脳梗塞を患う徐おじいさんは、左半身不随の状態で、右手足の力を使ってベッドの脇に体を移動させていた。紀医師と卓蘭地元の卓錫彬医師、それから同行のボランティアたちは、すぐに手伝つて徐おじいさんを車椅子に座らせた。

血圧が正常値であることを確認した後、看護師の蘇瑋苓さんは徐おじいさ



んの傍に座つて、「右足で左足を支えあげて、五まで数えてください」「一、二、三、四、五」と声をかけた。「それから泥まみれの右足を持ちあげて、真つすぐにしてから床に降ろしましょう。十まで数えますよ。リラックスして、十まで頑張つて下さいね」という皆の励ましを受け、蘇瑋苓さんの教えに従い、彼は数えながらその動作を続けた。

蘇瑋苓さんは徐おじいさんの左手足の筋肉が萎縮し過ぎていることと、右手足で支えていては、その重みで怪我をする可能性があることを心配して、

いくつかの手足を動かす動作を教えた。常に自分でリハビリできるように期待している。

「ここに来るのは、役に立ちたいからなのです」と蘇璋苓さんは言った。医療スタッフにとって、毎回行われる訪問診療で患者の助けになりたいと考えている。とくに脳梗塞の患者は体を動かさなければ、血液の循環が悪くなるうえ老化しやすくなる。「徐おじさんが車椅子に座れるようになったということは、私たちからの励ましも役に立ち、もっと元気になってもらえるはず

だということですよ」と彼女が言った。別れる前、蘇璋苓さんは忘れずに毎日朝、昼、夜とリハビリを続けるように、と念を押した。「はいはい。できる限りやってみます」と彼は檳榔を噛んでロボロになった歯を見せながら笑顔で返事をした。

ボランティアが通訳となり、安全衛生教育が順調に進む

「果物の郷」と呼ばれる卓蘭への訪問診療に行く際、目の前に広がるのどこ

までも続く梨畑だ。成熟するのを待っている梨は袋に覆われ、あっちこっちの高台に実っている。一つ一つの果実の袋は農民たちの暮らしを支える収入源の象徴であり、農民たちがその収穫を得るまでどれほど苦労したかを意味する。

ここに住んでいる人たちは、苦勞に耐え一生懸命働く気質を持つ客家人が大多数を占める。若い時から険しい山

●ボランティアの看護師蘇璋苓さんは（中）体を屈めて、年長者に教え、毎晩ぬるま湯で足を浸した後、タオルでしっかりと拭いてあげて、静脈瘤を緩和させる。



の斜面の上で耕作していたため、一部の人は体が早めに衰弱し、あるいは過酷な仕事で、後遺症が残ってしまった人もいる。

黄おばあさんの両足は、長年そのような環境で働いた結果、ひどい静脈瘤を患って、下腿の間に浮き出した血管は小さい虫が這ったような形をしている。足の指が十本とも曲がっていて変形した状態では、スリッパをはいても、常に皮がこすれて破れ血がしみ出してしまふのだった。

蘇瑋苓さんはそれを見て、体を屈めて両手でおばあさんの両足を持ち上げ

て、傷だらけの足を詳しく診察し、「水の量をふくらはぎの上あたりまでにして、毎晩ぬるま湯で足を浸すといいですよ。その後にタオルで乾かしてくださいね」とおばあさんに教えてあげた。おばあさんは客家人で、客家語と簡単な北京語でしか話せないのに、蘇瑋苓さんは、ボランティアの蔡欽盛に通訳してもらって指導する。

口で言うよりも実践的に教えた方が分かりやすい。蘇瑋苓さんは高雄から里帰りしているおばあさんの息子にぬるま湯を持ってきてもらい、おばあさんの両足を水に浸し、足の指を曲げた

り延ばしたりさせて、十まで数え続け

た後、また十まで数えて休むことを何回か繰り返してもらいました。そして、

おばあさんの両足を自分の膝に持ち上げて乾いたタオルで水気を拭き、足の指の間もきちんと拭いてあげた。「足の指の間を乾かさないと温い湿気で皮膚に水虫がでやすく、ひどい場合、蜂窩<sup>ほうか</sup>織炎<sup>しえん</sup>になる可能性もあるのです」と蘇瑋苓さんは拭きながら話した。

子供が皆別の場所に住んでいるおばあさんは、行動的な人なので、もしも毎日言う通りにすれば、血液の循環がよくなり、静脈瘤の症状も緩和できるだ

ろうと蘇瑋苓さんは期待している。

親切な行動で、  
お年寄りの固い心が溶ける

車がくねくねとした山道を走り続け、ある斜面に止まって、皆足元に気をつけながら車から降りた。強い日差しの下、左に曲がって少し上に登ると一軒の家に着いた。裏側にある山の斜面の竹林に比べ、この家はとくに低くて古いと感じられた。

この家に住んでいる李おばあさんは耳が遠いので、紀医師はここに来る前



●坪林社区文康センターの一般診療所で、李永馨医師（左）は、年長者を丁寧に診察している。  
（撮影・劉勝爵）

すでに東勢で仕事しているおばあさんの息子と電話で連絡し、李おばあさんが家にいることを確認していた。蔡欽盛はおばあさんが使っている客家語で大きな声で「おばあさん、お家にいますか」と聞いてみたが、しばらくしても答えがなく、ドアが開く様子もない。「ここまでに来た以上、あきらめるわけにはいかない」と彼は家を一回りし、窓から中に向かって叫んだ。

蔡欽盛は三年前初めて李おばあさんと知り合った。その時の李おばあさんは、人生の半分以上も畑で働いていたが、その耕作地の問題で役所と争いが起きた。それ以来、家に閉じこもって、誰とも会わず、慈済ボランティアを相手にしなかった。一年が過ぎて再び会いに来た時、李おばあさんはやっぱり話をしてくれないが、慈済ボランティアの訪問を受け入れてくれるようになった。

蔡欽盛は李おばあさんがなぜドアを開けてくれないのかと不思議に思い、

「おばあちゃん、おばあちゃん」と客家語で大声で呼んでいると、ドアがやつと開いた。なるほど、おばあさんは風邪をひいたのか、痰が喉に絡んで、呼吸も荒くなっている。傍に座って、耳の近くで「風邪薬を飲みましたか」と蔡欽盛は聞いた。「はい」との短い返事を聞いたただけだったが、すごく嬉しかった。

「私は人の心が安らかになる温度が何度なのかは分かりません。でも慈済人の情熱が必ず人の心を溶かしていくことは知っています」。おばあさんが

## 善と医療に取り組み、 長期的定期的に寄り添う

- ▼ 2006年から、中部慈済人医会のメンバーは毎月1回、日曜日に苗栗縣卓蘭鎮で高齢者と低所得家庭の往診を行っている。
- ▼ 定期的な訪問ケアのほか、その日も卓蘭坪林社区文康センター、あるいは卓蘭坪林里活動センターで診療を行っていた。
- ▼ 慈済人医会は医師、看護師、薬剤師、医療技術スタッフ及び後援ボランティアなどの組織で、また慈済慈善体制とも協力し、地域の住民を看護している。昨年台湾全域の慈済人医会は定期的なケア数が643戸に達していた。

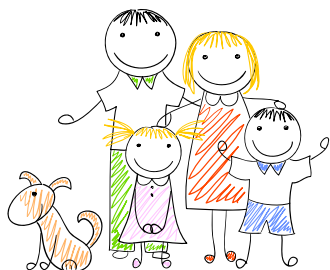
皆と触れ合ううちに、口角が上がって笑ったり、顔の筋肉が柔らかくなったりするのを見て、蔡欽盛は誰よりも嬉しかった。

長話にも根気よく付き合えば、  
長期医療効果が表れる

訪問ケアのほかに、慈済人医会のメンバーは坪林社区文康センターで定期診療を行い、内科、歯科と漢方科を設置している。ボランティアの黄億青は自分の長所を活かして、地元の人たちにヘアカットをしてあげている。午前

中に診療所に人が行ったり来たりして、いつもは静かな山間の集落がにぎわっていた。

卓蘭の山間部は辺鄙な場所にある道路は整備されているが、体が不自由な人は車を運転できない上バスにも乗れないため、外の町へ出稼ぎしている若者が家に帰った時に病院へ連れて行ってもらうしかない。それ以外は連なる山並みを昼も夜も見続いているだけだった。子供たちの帰省以外に待ち望んでいるものと言えば、毎月の訪問ケアの慈済人医会と慈済ボランティアの姿であろう。（慈済月刊六二〇期より）



## インターネット利用に対する賛否両論

問：子供が毎晩ずっとインターネットをしているため、日中元気がありません。どう言い聞かせたらいいいのでしょうか。

答：今の親は子育てが大変です。周りの

誘惑が多く、かつて子供たちが熱中した連続ドラマはゲームに変わり、パソコンからスマホへと、間断なく子供たちを

誘惑し、親が眩暈を起こすほどです。

家族と一緒に外食しても、周りを見ると皆がスマホをいじっていて、家族間の触れ合いが見られません。公園での散歩

にしても、親は木の下でスマホをいじり、

子供もスマホから目を離さず、親子の交流が見られません。汗をかくことを爽やかに感じることもなくなってしまったのです。このままの生活を続ければ、子供たちにネットの誘惑から離れさせるのは非常に難しいでしょう。

私の家では、二人の子供が小さかった時、週二日屋外で運動させ、連休の時も必ず短い旅行に連れて行って、子供たちを自然に触れさせながら、体を鍛えました。毎週、パソコンの使用時間を、行儀の良し悪しで点数をつけて決めていました。今では子供たちは運動する習慣がつき、自分たちで旅行計画を立て、生活が

パソコンに縛られるようなことはありません。

幼い時からこのような習慣をつけさせれば、親子の衝突も避けられるでしょう。もしもまだその習慣がない時は、これから始めると、状況を改善することができるとは思いません。

一、決してパソコンの暗証番号をロックしてはいけません。子供は自分でロック解除できますし、親子の信頼感が崩れてしまいます。

二、決して勝手にパソコンのコンセンストを抜かないこと。これは親子喧嘩の原因となります。

三、決して口やかましく言わないこと。



いつもパソコンゲームに興じているから成績が悪くなる、スマホをいじっているから目が悪くなった、などです。

親はこの「三つの決してしない」原則を守らないと、親子関係がぎくしゃくしてしまいます。

一体どうしたらいいのでしょうか。親子ともに落ち着いて、問題について話し合うことです。

一、双方でネットゲームをする時間を決めるのです。例えば週二時間で、金曜日の夜、土曜と日曜の午前中に制限し、その他の時間は、学生の自分を尽くし、勉強に専念するのです。また、日曜日の

午後は家族全員で運動するようにしましょう。

二、子供がルールに違反したらどう対応するかも前もって決めましょう。一旦決めたら、徹底して実行するのです。そうでなければ、子供は親を見下し、次にルールを決めても無視してしまいます。

三、ネットゲームをする時間は、子供の態度の良し悪しで調節するのもいいでしょう。例えば、家事の手伝いをしたら、十分間増やしてやります。あるいは年配の方に礼儀正しくしたり、弱者を助けたりした場合も、もう十分間増やしてあげるのです。学校の成績だけを重視するの

ではなく、子供たちに正しい習慣を身につけさせると共に、プラス思考の環境の中で生活させるのです。

これは私が子供とネットの誘惑問題で歩んできた経験談です。子供はそこから満足を得ると共に、自主的なルールの下に生活するようになりました。たとえば子供が親元を離れて別の場所で学校生活を送っていても、子供がゲームが原因で欠席や遅刻をし、学生の自分を忘れるという心配はありません。子供はこのネットゲームのルールから、自主的なルールを学び取っているのです。

（慈済月刊六一二期より）



## 智力を活性化させる

◎文・釋徳仇／訳・済運

脳と体を活性化することで老化を遅らせることができる。頭は使うべきだが、煩惱を起こしてはいけない。

### 人生の日記を完成させる

桃園から新竹に出発する直前、上人は自分の弟子である慈済人に期待を語った。「苦難に喘ぐ人を助ける時だけ互いに協力し合い、菩薩精神を発揮するのではなく、普段からそうやって人と接することが大事であり、再び、凡夫に戻って仲違いしてはいけません。仏法

を心に聞き入れ、人との付き合いにそれを活用し、執着を捨てて、法縁者（同じ慈済の門下生）と共にこの世で善行を成就させると共に、自分の慧命をも成長させなければいけません」

「慈済人であれば、合心、和気、互愛の各チーム力を発揮して、同じ方向に向かい、協力チームが菩薩の良能を発揮できるようにするのです」

以前、新竹に行脚した時、いつも鄭粧師姐の笑顔に迎えられ、かたわらで新竹連絡所の活動をくまなく説明してもらっていたが、鄭粧師姐は六月十八日にこの世を去った。上人は鄭粧師姐の夫と子供たちに、「私も心残りですが、師姐は今生を終え、次の人生に向かう因縁が成就したのですから、誠意を込めて祝福してあげなければいけません。とくに師姐は心に仏法を聞き入れ、とてもしっかりしていたために、臨終の時も心が動揺しなかったことを喜んであげてください」と話した。



「鄭粧には円満な家庭がありました。夫は彼女の志業を支持し、子供も聞き分けが良く、一心一志、仏心師志で以って正しい道を歩んで大道を切り開き、今生を無駄に過ごすことはありませんでした。彼女は人と接する時、いつも笑顔で迎え、何事も智慧と善に解釈することで対処し、彼女の模範行動は非常に多くの人を善に導きました。彼女の縁は終わりましたが、喜ぶべきことに、彼女の人生には欠点がなく、何の悔いもありませんでした。祝福すべきことです」

新竹の慈済人懇親会で法縁者が鄭粧師姐の模範的な言葉やその行動を懐かしんだ。彼女は人生の最期でも、見舞いにきてくれた法縁者が新竹静思堂という「家」を大事に守っていくよう託していた。彼女は往生した後、献体し、医学教育の成就に貢献した。感謝の追悼会には千人を越す人が参加した。

「鄭粧師姐は家庭では良き母であり、妻であり、慈済では何十年もの間、慈悲喜捨を実践して大勢の人と良縁を結んできました」と上

人は言った。「彼女が可愛がった若い人たちは、すでに慈済の一員になり、これから彼女の愛のエネルギーを次世代に伝承していくことができるのです。これこそが社会の希望なのです」

また、「今回、行脚に出た時、何度もお年寄りケアに関することを耳にしました。統計によると、認知症患者の年齢層が低くなっているそうです。幸いなことに数多くの高齢の慈済人はまだ、ボランティアとして活躍し、毎日人々に奉仕しています。絶えず心も頭も体も使っているため、認知症になりにくいのです」と上人は言った。

「慈済でボランティアするには毎日、頭を使わなければなりません。歳をとればとるほど頭を使うべきですが、煩惱を起こしてはいけません。心を清らかに保ち、毎日、他の菩薩と接して互いに励まし合わなければなりません。喜びで以ってボランティア活動をすれば、慧命が成長して全てが良縁となり、来世以降、業力に引く張られることはありません。そこには智慧の力があるからです。その力は『知



識を智慧に変え』、正しい方向に向かって菩薩道を歩ませてくれます」  
 「人生は無常であり、生命は一日過ぎれば一日短くなります。紙の  
 暦を破るように、最後の一枚を破れば、新しいものに取り変えなけ  
 ればなりません。来世で菩薩道を歩むために、良縁を積み重ね、毎日、  
 生命の暦に日記を書き、豊富な内容のものに完成させるのです」

### 一体となつた繋がりのある行動

上人は新竹のボランティア幹部と慈済ボランティアの「四法四門  
 四合一」という組織構造についての話をした。それまで女性の大小  
 のチームと男性の大小のチームで編成されていて、各人の所属地域  
 と人力動員の問題が発生していたため、大、中、小という階級的な  
 観念を打ち破って、合心、和気、互愛、協力という精神、即ち、「四  
 合一」という枠組みにしたのである。

四合一チームには、役職の上下で誰その言うことを聞くのでは  
 なく、「三」が「二」に加わることで、即ち、合心、和気、互愛の男女  
 チームが協力の男女チームに加わって一緒に事を成すのである。合  
 心男女チームは経験が豊富なため、慈済が無から有に発展した歴史  
 を新しい仲間に話すことで、法脈と宗門の精神を伝承している。

合心は伝承、和気は公布、互愛は企画、協力は実行というように、  
 別々に行動するのではなく、一体となつて繋がりのある行動をしな  
 ければいけない、と上人が説明した。人体に例えれば、合心が脳で  
 和気が心臓、互愛が骨格であり、全てが一体となつて初めて協力  
 チームはその機能を発揮できるのである。

「合心は即ち、協力であり、慧命を途絶えさせてはいけません。老  
 いたからと言って、引き継ぎを終えたから引退しようと考えてはい  
 けません。日と共に生命は短くなつていきますが、歳をとればとる  
 ほど時間と競争して福と慧を修める（世に幸福をもたらし、智慧を



増やす）ことで慧命を成長させ、日々を無駄に過ごさないようにしなければなりません」

どのチームに所属しても、請われなくとも師となり、合心は人と和氣藹々と触れ合い、和氣は人と積極的に互愛すべきであり、誰もが心を一つに協力しあって慈濟の志業を成さなければならない。また、法縁者の間では互いに関心を持って世話し、いつでも助け合い、互いに足りない部分を補い合いうべきである、と上人は論じている。

「一日でも慈濟人になれば、一生慈濟人であり、一旦慈濟に入れば、誰もが心を一つにしなければなりません。最も経験のある者から初心者まで法脈を伝承するのです。合心、和氣、互愛の三つのチームが協力に加わることが即ち、『四合一』であり、心臓と脳と体が一体で血脈が健全に流れるようになって初めて、責務を担い、多くの事を成すことができるのです」

（慈濟月刊六二二期より）

# 慈濟大記事十月……………

訳・済運

|      |                                                                                                                                                         |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1003 | <p>慈濟インドネシア支部はスラウェシ島地震の災害支援で、1回目の視察チームを派遣し、南スラウェシ省マカサー市で現地ボランティアと合流した。3日からマカサー市から順次、パル市、シギ県、ドンガラ県などで被災者に生活物資の配付と炊き出し、施療活動を行うと共に、病院で負傷者に緊急災害慰問金を届ける。</p> |
| 1001 | <p>アメリカ赤十字社はノースカリフォルニア州シリコンバレーのヴィラモンタルヴォで2018年ヒーローアワード晩餐会を催した。慈濟基金会が国際人道主義賞を受賞し、ノースカリフォルニア支部の謝明</p>                                                     |

|                                                                                                                                          |                                                                                                               |                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 10・12                                                                                                                                    | 10・09                                                                                                         |                             |
| <p>慈済はミャンマーの水害で被災した農民を支援するため、台湾とマレーシアの慈済ボランティアと職員19人から成る先遣チームが本日、ミャンマーで現地ボランティアと合流し、豆と稲の種の配付準備作業を行った。15日にヤンゴン省カヤン市ジャーガン村で第1回配付活動を行う。</p> | <p>インドネシア、イスラム教徒連合会は慈済インドネシア支部、インドネシア科学研究・高等教育部、青年体育部、実業家、ボゴー市パルン町などが共同でイスラム教徒連合会大学を建設することになり、本日起工式が行われた。</p> | <p>（福慧ベッド）などの支援物資を配付した。</p> |

|                                                                                                       |                                                  |                                                                                                                     |                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 10・06                                                                                                 | 10・05                                            | 10・04                                                                                                               |                      |
| <p>アメリカ慈済ボランティアは9月下旬、アメリカ国境に近いメキシコのティワナ市で、3カ所の「IDを持たない移民シエルター」を訪れ、食糧とキャンバス生地、日用品、清掃用具、多機能折り畳み式ベッド</p> | <p>慈済カナダ支部はハンバーカレッジに開設された慈済漢方クリニックの落成式に参列した。</p> | <p>慈済基金会はインドネシア、スラウェシ島地震被災者支援のために、台湾から1万枚の毛布と637箱の即席飯など13トンの物資が本日、発送された。10日現在、世界30の国と地域で慈済ボランティアによる募金活動が行われている。</p> | <p>晉執行長が代表で受領した。</p> |

|       |                                                                                                           |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10・15 | 慈済インドネシア支部はインドネシア中南部地震の被災地に於ける早期の復旧に支援参加するに当たり、インドネシア軍部と協力関係の覚書を交わした。ロムボク島とスラウエシ島パル市、ドンガラ県、シギ県などで住宅建設を行う。 |
| 10・16 | 慈済大学に所属する「環太平洋大学連盟」と中央地質調査センターは覚書を交わし、共同で地域の地質環境に関する教育と防災観念を広めることを目指す。本日、宜蘭大学で合同記者会見を行った。                 |
| 10・19 | 慈済基金会は19日から22日まで第72回静思生活キャンプが開かれ、アメリカ、カナダ、マレーシア、ベトナムなど11の国と地域から635人が参加する。                                 |

|       |                                                                                                                                              |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10・20 | 台湾尿失禁予防治療協会と花蓮慈済病院及び慈済大学合同の「第13回環太平洋尿失禁コントロール医学年次総会（PPCS）」が本日、台湾、日本、韓国、オーストラリア、シンガポール、香港、中国など7カ国・地域から60人の泌尿器科及び産婦人科医師が参加して開催された。             |
| 10・21 | 台湾鉄道の8両編成の特急列車が宜蘭県蘇澳新馬駅近くで脱線し、18人の死者と200人以上の負傷者が出た。宜蘭、新北市、台北市、基隆、花蓮、台東などの慈済ボランティアが慰問活動を展開し、炊き出しや毛布などの物資の配付を行った。また、病院や葬儀場でも慰問活動を行い、緊急慰問金を届けた。 |

# 各国の連絡所

## 本部

971 花蓮県新城郷康樂  
村精舎街 88 巷 1 号  
TEL: 886-3-8266779  
886-3-8059966  
志業中心 (静思堂)  
970 花蓮市中央路三段 703 号  
TEL: 886-40510777 # 4002  
0912-412-600 # 4002

## 花蓮慈济医学センター

970 花蓮市中央路三段 707 号  
TEL: 886-3-8561825  
玉里慈济病院  
981 花蓮県玉里鎮民権街 1-1 号  
TEL: 886-3-8882718  
関山慈济病院  
956 台東県関山镇和平路 125-5 号  
TEL: 886-89-814880  
大林慈济病院  
622 嘉義県大林鎮民生路 2 号  
TEL: 886-5-2648000  
台北慈济病院  
231 台北県新店市建国路 289 号  
TEL: 886-2-66289779  
台中慈济病院  
427 台中県潭子郷豊興路一段 88 号  
TEL: 886-4-3606066  
FAX: 886-4-36021123

## 慈济大学

970 花蓮市中央路三段 701 号  
TEL: 886-3-8565301  
FAX: 886-3-8563604

## 台北支部 (新店静思堂)

231 新北市新店区建国路 279 号  
TEL: 886-2-22187770  
慈济人文志業センター  
112 台北市立德路 2 号  
大愛テレビ局  
TEL: 886-2-28989999  
静思人文  
TEL: 886-2-28989888

## アメリカ

総支部 (San Dimas)  
TEL: 1-909-4477799  
北カリフォルニア支部  
TEL: 1-408-4576969  
ハワイ支部 (Honolulu)  
TEL: 1-808-7378885

## カナダ

TEL: 1-604-2667699

## メキシコ

TEL: 1-760-7686631

## ドミニカ Santo Domingo

TEL: 1-809-5300972

## ブラジル Sao Paulo

TEL: 55-11-55394091

## イギリス

TEL: 44-20-88699864

## フランス

TEL: 33-1-45860312

## ドイツ Hamburg

TEL: 49 (40) 388439

## オランダ Amsterdam

TEL: 31-629-577511

## スウェーデン Goteborg

TEL: 46-31-227883

## オーストリア Vienna

TEL: 43-1-7346988

## 南アフリカ Gauteng

TEL: 27-11-4503365

## 中国蘇州

TEL: 86-512-80990980

## 香港

TEL: 852-28937166

## フィリピン Manila

TEL: 63-2-7320001

## タイ Bangkok

TEL: 66-2-3281161-3

## ベトナム Hochiminh

TEL: 84-8-38535001

## ミャンマー Yangon

TEL: 95-1-541494

## マレーシア

Penang

TEL: 604-2281013

Malaka

TEL: 606-2810818

## シンガポール

TEL: 65-65829958

## インドネシア Jakarta

TEL: 62-21-5055999

大愛テレビ局

TEL: 62-21-50558889

## スリランカ Hambantota

TEL: 94 (0) 472256422

## ヨルダン Amman

TEL: 962-6-5817305

## トルコ Istanbul

TEL: 90-212-4225802

## オーストラリア Sydney

TEL: 61-2-98747666

## ニュージーランド

Auckland

TEL: 64-9-2716976

# 慈濟

2018年11月19日発行・263号

中華郵政台北誌字第909號執照登記為雜誌交寄

Printed In Taiwan

発行人 釋證嚴

発行所 慈济基金会

〒112 台湾台北市北投区立德路2号

編集 慈济日本語翻訳チーム

杜張瑤珍・王麗雪

校閲 山田智美

電話 (886)02-2898-9000

FAX (886)02-2898-9994

E-mail: 021620@tzuchi.org.tw

慈济基金会日本支部

〒169-0072 東京都新宿区大久保1-2-16

電話 (03)3203-5651 ~ 5653

FAX (03)3203-5674

E-mail: jptzuchi@yahoo.com.tw

tzuchi@tzuchi.jp

證嚴法師のお言葉、委員や会員の体験談、慈济に関するニュース等を日本の方々にお知らせする目的でこの小冊子を編集しました。日本語への翻訳は素人である私たちがしましたので、不備な点や、つたないところがあると思います。ご感想やご教示がいただければ幸いに存じます。(日文組編集同人)



砂漠にあるヨルダン・アズラック難民キャンプでは、4万人以上の難民を収容している。医療資源に乏しいため、慈済人医会は再度施療を実施した。幼児を抱いて、診察を受けに来たシリア人女性の顔に珍しく笑顔が溢れた。（文・撮影：蕭耀華 2018.7.25 ヨルダン・ザルカにて）

